



今月は、3月末に退任となる総長と2人の副院長よりご挨拶、また、整形外科の三輪副部長をご紹介します。今後も変わらず市立池田病院をよろしくお願い致します。



総長 今井 康陽

この度、2022年3月末をもって市立池田病院を退職するにあたり、この場をお借りしてご挨拶申し上げます。

私は、1978年に大阪大学医学部を卒業し、大阪大学医学部附属病院での研修を経て市立池田病院内科に1年間勤務しました。当時の医局は非常にのんびりとした雰囲気、夕方5時を過ぎると、始めて間もないゴルフの練習に出かけたり、先輩の先生方と麻雀を楽しんだりの毎日でした。毎月開催される医局ゴルフコンペでの優勝が目標の一つで、赴任して11か月目に優勝できたことを今も懐かしく思い出します。

その後、大阪大学医学部第二内科肝臓研究室に13年間在籍し、1993年に再び市立池田病院内科に赴任しました。そのとき、副院長として米澤毅先生が、また、消化器内科専門医として黒川正典先生や西川正博先生がおられ、大学時代にご指導いただいた先生方でしたので大変心強く、再びご指導いただくことになりました。

私の専門である消化器内科、特に肝疾患領域では、1989年にC型肝炎が発見され、1992年にインターフェロン治療が開始されたばかりの時期でした。赴任して間もなく、池田市医師会学術担当であった仁士賢一先生のご尽力により、胃腸の会、ハートクラブに次ぐ3番目の医師会研究会として肝胆膵研究会（通称「γ会」）を立ち上げていただきました。γ会は病診連携や臨床研究の基盤となり、池田市や川西市を中心に多くの先生から患者さんをご紹介いただき、C型肝炎やB型肝炎、肝臓など数多くの肝疾患診療に従事することができました。また、福田副院長はじめ、当院消化器内科・外科の先生や多くの職員の協力により、日本消化器病学会近畿支部例会や日本超音波医学会関西地方会を会長として開催できたことは記念となりました。

2013年からは病院長として、2018年からは総長として、管理業務に従事し、地域医療支援病院としての責務を果たすべく、地域のかかりつけ医の先生方との強固な医療連携、質の高い急性期医療を目指してきました。その中で、「Total Patient Flow Management(TPFM)」と名付け、入院から在宅まで、医療、看護、介護が院内外の切れ目なく連携する体制づくりを多職種で取り組んできました。若い医師の育成を重視し、研修医教育にも力を注ぎました。これらの取り組みは、少しずつですが着実に成果として表れていると感じています。また、大阪府病院協会副会長や全国公私病院連盟常務理事などの職務に就く機会に恵まれたことは大変貴重な経験となりました。最近の2年間はコロナ対策に追われ、通常診療とコロナ診療の両立に苦慮する日々で、一刻も早いコロナ禍の終息を願うばかりです。一方で、2021年末には念願の手術支援ロボット「ダヴィンチ」を導入するなど、今後の新たな展開を期待しています。

市立池田病院を退職し、4月からは大阪市内にある人間ドック施設で予防医学に取り組んでいきます。市立池田病院を離れますが、引き続き、ご指導いただければ幸いです。

最後に、30年の長きにわたり、池田市医師会や川西市医師会の皆さまをはじめ、多くの方々には大変お世話になり、本当にありがとうございました。今後とも、よろしくお願い申し上げます。



副院長 福田 和人

地域医師会の先生方にはいつも大変お世話になり、誠にありがとうございます。2022年3月末をもちまして市立池田病院を退職することとなりました。2000年2月1日に着任以来22年余に渡り、患者さまの紹介、逆紹介や研究会、講演会など地域連携でご指導・ご鞭撻いただき厚く御礼申し上げます。

私が着任しました当時は、本館の5病棟のみで、内科も専門領域ごとに分かれておらず、ごちゃまじりとした病院でした。私は西川正博先生の後任としてまいりましたが、消化器内科のスタッフは胃腸膵が黒川副院長、厨子先生、肝臓が今井主任部長、私と4名のみで、研修医も内科全体で5名前後でした。肝疾患はC型肝炎が大半で、インターフェロンの治療効果も十分でなく、ウルソ内服や強力ミノファゲン点滴を継続されている方がほとんどでした。肝細胞癌の治療も、肝動脈塞栓術、経皮的エタノール注入・マイクロ波を主として行っていました。

その後の20年間で、C型肝炎の治療はIFNからPEG-IFN、さらに経口剤のみでほぼ100%ウイルスの消失が達成でき、B型肝炎も核酸アナログ内服で長期にわたり肝炎の鎮静化が得られるようになりました。画像診断も造影超音波、EOB-MRIによる存在診断に加え、US/MRIエラストグラフィー・脂肪定量など質的診断も可能となりました。治療選択肢も、手術、ラジオ波、分子標的薬、定位放射線・重粒子線治療など広がってきました。消化器内科スタッフも徐々に増加し、現在では今井総長、尾下病院長以下11名となり、専攻医も5名と北摂でも有数の規模となりました。

このような肝疾患診療の黄金期を、今井先生のご指導の下に行えたことは大変幸運であったと感謝しております。質・量ともに豊富な症例の担当、各種治験への参加や最新機器の使用など、貴重な経験をさせていただきました。学会発表や論文作成などもご指導いただき、この場を借りて御礼申し上げます。

4月からは、前病院長の柴田先生のお誘いもあり、猪名川町の晴風園・今井病院で勤務予定です。これまでの消化器・肝臓中心の臨床から、高齢・リハビリテーションの患者さまに対する全人的な医療を目指して精進していく所存です。医師会の先生方にはこれまでとまた違った形の地域連携でお世話になることと思います。

引き続き、ご指導いただきますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。



副院長 大河内 敏行

地域の先生方には平素より市立池田病院整形外科がお世話になり、ありがとうございます。私事で恐縮ですが、この度3月末をもちまして定年退職することとなりました。市立池田病院に赴任してきたのが2005年1月ですので在任期間は、17年3カ月になります。市立池田病院整形外科には小生の赴任前から「専門治療は市立病院で、通常のフォローはかかりつけ医で！」というモットーがあります。また、池田整形外科医会は2000年（平成12年）から4回/年、2015年（平成27年）から3回/年開催され、コロナ禍の影響で直近は第74回（2020年2月8日）ですが、先生方とは勉強会を通じて親睦を深めてまいりました。そのおかげをもちまして、紹介率は2005年（平成17年）が35.2%であるのに対し2020年（令和2年）は96.1%で紹介患者さまは増えてきており、逆紹介率は2005年度が30.0%であるのに対し、2020年度は81.6%でした。病診連携が徐々に浸透してきている表れと考えております。

手術件数は、外科系の実力を示すバロメーターです。市立病院の特性から手術件数の半数以上を骨折などの外傷が占めますが、2005年度が391件（内、人工股・膝関節 63件、脊椎72件）、2020年度が751件（内、人工股・膝関節 116件、脊椎125件）と着実に増えています。これも先生方のご紹介のおかげです。最近ではコロナ禍で手術件数、特に外傷が減っていますが、今後ともご紹介をよろしく願いいたします。

整形外科のスタッフは2005年から7名で、現在、関節が若林、石田、手外科が今井、宮本、脊椎外科は私の後任として今年1月より三輪が担当しています。また、4月から脊椎外科担当が1名赴任する予定です。これからも整形外科は主任部長である若林が率いていきます。

先生方には17年間、大変お世話になり、ありがとうございます。末筆ながら先生方のご健康と益々のご発展をお祈り申し上げます。これからも市立池田病院整形外科をよろしく願い申し上げます。



< 整形外科 ご紹介 >

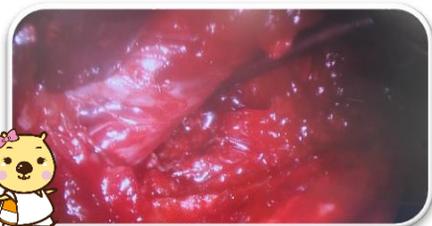
整形外科副部長 三輪 俊格

はじめまして。2022年1月から市立池田病院 整形外科に赴任いたしました。今まではJCHO大阪病院、関西労災病院で脊椎外科の勉強をし、その後は住友病院で脊椎センター長として仕事をしてきました。開業医の先生方の中には以前の病院で何度かご紹介いただいた先生もいらっしゃるかもしれません。この度、勤務となったのは市立病院ということで、以前よりも地域の患者さまに寄り添う医療ができるようになったのかな？と思っております。

地域の先生方と協力して地域の皆さまが元気を取り戻してもらえるよう、力になれば幸いです。背椎疾患の多くは保存治療になりますが、外科的治療が必要な患者さまがいらっしゃいましたらご連絡いただければ幸いです。

2022年4月からは、今まで長い間、背椎疾患に従事してきた大河内先生が退任され、代わりに新しい背椎のドクターを迎えて二人体制で背椎診療を行ってまいります。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

背椎内視鏡手術（MED）術中写真



手術内容		2019年	2020年	2021年
頭蓋頸椎移行部	固定	1	1	3
	除圧	17	13	24
頸椎	固定	1	1	1
	除圧	5	1	3
胸椎	固定	0	1	0
	除圧	27	48	53
腰仙椎	固定	21	27	18
	髄外・硬膜外	0	0	1
その他		28	16	17
計		100	108	120

当院は地域医療の拠点病院として、今後も地域医療に貢献していく所存です。何卒宜しくお願いいたします。